「会員短信 60」

「私の名前②」　　ほりもとちか

大阪文学学校での勉強は、週一回の夜学でした。毎回、作品を提出して、それを事務の方が人数分をプリントしてくださり、それを手元に先生を囲んで合評するというのが授業でした。この時の先生は、三井葉子さんと福中都生子さんでした。

何回目かの授業の時、事務員さんから原稿を返してもらうのを待っていたのですが、いつ迄経っても私のだけが戻ってきません。「？？？」と思っていたら、若い事務の男性が、「クツポン・シュウさん！　クツポン・シュウさん！」と大声で叫んだのです。「エッ、ひょっとして私のこと？」と思って急いで行ってみると、私の原稿でした。呆気にとられました。私のこと何人やと思てんねん。ましてや文学の学校やのに日本語読まれへんのか‼　とものすごく腹が立ったのです。私の本名は「堀本周」でした。

以来、名前は平仮名で書くことにしました。これで読めへんかったら、アンタ幼稚園からやりなおせよと。こういうわけで、私のペンネームは「ほりもとちか」になりました。しかし、それでもたまに「ほり・もとちか」と読まれて男性だと勘違いされることもあります。

俳句歴は、およそ四十年。俳句は言葉遊びで日記代わりだと思っています。テレビ、新聞、週刊誌、あるいは吟行に参加して、見たまんま、「へェッ～」と思ったことを、出来るだけそのまま伝わるようにと作っています。上手とか下手とか関係なく、「エッ、そんな事あるん？」と。　了

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。